

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902138		
法人名	社会福祉法人かがやき		
事業所名	グループホームかがやき 1階		
所在地	旭川市末広5条2丁目4番1号		
自己評価作成日	平成27年11月9日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902138-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902138-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年11月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・前回、ご家族より外出の機会を増やして欲しいとの要望があり、外出行事のあり方を見直し、少人数による近所の散歩など外気に当たり季節の移り変わりを感じていただけるよう、関わるようにさせていただいている。運営推進会議や家族会の時には、当ホームでの行事の様子や地域の方との交流が持てるよう、協力要請をさせていただいている。本年10月よりボランティアセンターの要請を受けて、会話ボランティアの方々の受入を開始している。地域に開かれた施設となるよう心掛けている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は住宅街の静かな環境に立地し、隣には法人が運営する介護付有料老人ホーム、近隣には小学校やスーパー、公園がある。管理者、職員は「住みなれた街で自分らしく、心豊かな生活を応援します」という思いを持ち、地域での散歩や小学校の学習発表会、町内会行事への参加を通して交流している。また、事業所の行事には小学生、地域の住民が多数来所している。今年度、外出機会を多くしてほしいとの家族からの要望もあり、動物園、買い物ツアー、ドライブ、町内会の行事など多くの外出を行っている。また、会話ボランティアやメイクボランティアが来訪し、利用者にとって心豊かな支援となっている。家族に向けては、担当職員が利用者の日々の暮らしぶりを手書きのお便りで出すなど、家族との信頼関係を築いている。職員からの運営に関する提案も施設長が即、検討課題として取り上げるなど、利用者が安心して暮らし、職員も笑顔でケアに取り組めるよう努めている。

### V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の仕事の中では理念に対し意識の薄いところがあるが、ホーム内に掲示してある理念を見ることで職員同士が改めて共有できるように心掛けている。	「素直な気持ち・謙虚な気持ち・感謝の気持ち・地域共生の気持ち」を理念として、意識を共有できるよう、新人研修や会議の中で話し合いをしている。職員は理念を共有し、利用者に接する際には常に理念を意識しながら寄り添うケアを大切に実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の参加や、地域を活性化するための話し合いなどに施設として参加し、施設の説明や状況の報告でより施設を理解してもらうように取り組んでいる。	地域とは、職員、利用者が地域の行事に多く参加して関係を築いている。また、敬老の日の猿回しの開催を回覧板や小学校への案内で呼びかけ、近隣の方が大勢来所するなど、地域との関係を作り積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や運営推進会議での地域の方の参加を通じて認知症の人の理解や支援方法などを発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況や日頃取り組んでいる課題等についての報告し、推進委員の方からの意見や提案をもらいよりサービスに活かせるように取り組んでいる。	2ヶ月に一度地域包括支援センター職員、地域住民、家族の出席を得て開催し、会議事項に基づき事業所の現状、活動内容を報告している。委員からの意見や要望をサービス向上に活かしている。議事録は閲覧できるようホーム入口に置いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修などへの参加を通じ、事業所の報告をする事でさらに協力関係を持てるよう取り組んでいる。	市担当者とは、利用者へのサービスの取り組みなど、不明な点について助言を得ている。また、市が主催する研修に参加し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや各自が研修などで得た知識を共有し、身体拘束のないケアを全員が理解しながら取り組む努力をしている。	事業所に身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束マニュアルを整備するとともに、外部研修や内部研修に参加して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない身体拘束については、常に医療関係者、管理者、職員、家族で話し合いを行い経過をモニタリングし、原因の除去などに向け常に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での虐待が問題視されている中で言葉の虐待も含め常に意識を持って介護に努め職員間でも見過ごしなどのない様に注意をしながら虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に研修などで成年後見制度等を学ぶ機会はあるが、まだ活用はされておらず理解も十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族との話し合いを持ち、不安や不信感などをたれぬ様、契約時、また解約時などの説明は十分に時間をかけ納得をしていただける様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者の意見、要望は管理者、職員が受け全員で共有することで改善点等を見つけていくようにしているが外部へ表せる機会は設けてはいない。	家族アンケートにおいて外出の機会を多くしてほしいという要望があり、今年度は多くの外出を計画し実行している。利用者、家族からの意見・要望は細かなものも会議で検討し、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しての考えが代表者と職員が同じ方向性に向けてミーティングなどで職員の意見を聞きその意見を共有しながら仕事に反映できるように努めている。	月1回のミーティングでは、ケアに関する方法や提案など活発な意見が出され、運営に反映している。管理者は年1回職員と個別面談を行い、悩みや業務について話をする機会を設けている。意見や要望も言いやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の仕事に対する努力、姿勢、取り組み等を把握し、コミュニケーションを取りながら良い職場環境創りに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量を把握し内部研修、外部研修を受けてもらう事で職員同士でその内容や知識を共有しながらスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	包括支援センターの研修等の繋がりの中で各職員同業者との交流や意見交換の機会を持ち自身の向上にも繋がるように勤めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人から施設に対する要望や不安なこと、疑問点などを聞き、ご本人が安心して生活して行ける環境を作っていくことを伝えそれに向け努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望に耳を傾け少しでもそこに近付ける様、また情報を共有することで信頼関係を築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供の開始段階で今なが必要なのか、医療面を含め、日々の生活での支援、対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での本人の意思決定を尊重し、お互いに思いを共有しながら生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつも本人の思いや希望することを伝え理解して頂くと共にその思いを職員も共有しながら絆を作り本人を支えていけるように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会や、馴染みのお店での買い物など関係が途切れないように支援している。」	職員は、利用者の友人や知人が気兼ねなく訪問できるように笑顔で迎え、和やかな雰囲気での支援に努めている。僧侶の来訪もあるなど、大切にしてきた馴染みの関係が途切れない支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が会話や話題作りをしながらそこに同じ思いや楽しみなどの共通があればお互いの会話を引き出しながら関わり合いまた支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も状況に応じて本人やご家族の相談に答えられるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を全て受け入れるのは困難な部分があるが、出来る限り希望に沿い納得してもらえるようにご家族の協力ももらいながら支援している。	利用者の細かな生活状況、意向の把握に取り組んでいる。家族の意見や要望も取り入れ、表出が困難な利用者については表情や関わりの中で気付いたことを反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からこれまでの解る範囲の中で生活歴、環境などを聞かせてもらいそれを把握する事でこれからの生活に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や現在の心身の状況を、申し送りまた記録等によって職員ひとり一人が現状の把握に努めるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人により良く暮らして頂くために、本人、ご家族そして職員の意見、アイデア等を聞き取りながらモニタリングを行ない、課題や改善点も合わせ介護計画に反映させながら作成している。	介護計画は3ヶ月に一度作成し、利用者に変化があれば都度見直し、利用者本位の介護計画を作成している。事業所では今後、ケアの記録がより良い介護計画に結びつくよう、書式の改善を検討課題としている。	モニタリングやアセスメント記録は詳細に記載されているが、記録が介護計画に連動していないような箇所もみられ、事業所でも書式の改善を検討課題としている。現在、法人グループで書式を統一する検討がなされており、その実現に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々のケアや実践結果を記入し、その介護記録を職員間で共有しながら介護の見直しなどに活かせるようにに努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況などに対応しながら可能な所のサービスや支援を取り入れるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの活用として会話や歌などでコミュニケーションを取りながらゆったりとし、また楽しみも持ってもらえるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を最優先とし、かかりつけ医を決めることで適切な治療が受けられるように支援している。	かかりつけ医を継続して受診している。利用者・家族の要望により往診にも対応し、歯科も治療中は週1回の往診があるなど、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の体調の変化を細かく看護師に報告、相談することで、受診、処置等適切な対応が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必ず相談室等との情報交換を行ない経過の報告を受けたり、早期の退院を目指すように主治医との連携も取りながら関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時、また入居後に体調の大きな変化があった時、段階的に終末期に向けた話し合いを持ち、本人、ご家族の望む事を理解し、事業所が出来る事を伝えながら同じ方向性が持てるように支援している。	重度化した場合には、主治医を交え家族・職員が十分に話し合い、思いに応えられるようにしている。今年度は看取りを経験し、勤務時間終了後の職員も全員で立ち合いをしている。研修や話し合いで方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に専門知識のある方の研修、訓練を受けることで事故発生時や急変時にも落ち着いて対応できるように努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施する事で職員の意識を高めると共に、災害時の備蓄も少しずつ準備を行なっている。また運営推進会議を通し、地域からの協力体制も築けるように努力している。	避難訓練は年2回、日中、夜間を設定し実施している。消防署職員指導の下、設置してあるAEDの使用方法について学び、その他の対応についても研修している。停電時の充電器や食料、水を備蓄し、不足分は法人と連携がとれる体制になっている。	地域住民とは良好な関係が築かれているが、災害時に利用者の見守りの協力依頼や、事業所が地域住民の一時避難場所となるなど、より密な協力関係が築かれるよう期待する。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格やプライバシーは最善の配慮をしながら本人を傷付ける事のないように対応している。	職員は利用者一人ひとりの尊厳、年長者への敬意に配慮した支援をしている。日常の気になる言葉かけなどは、都度話し合いをしている。名前の呼び方はさんづけを基本としているが、利用者の希望の呼び方もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の希望やいつもの思いなどを理解するように働きかけながら会話などを見出せるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	外出や急な受診希望などにも希望に沿える範囲での支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な衣類を着て頂くよう心掛け、毎日の整容もしていただける様に声掛け、見守り支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に出来る作業は減っているが体調を見ながらおしぼりたたみやテーブル拭きをして頂いたり、食事そのものの楽しみとして本人の誕生月のお祝いとして好きなものをリクエストしてもらい食事を楽しんで頂いている。	職員も同席し同じメニューの食事を食べ、会話が弾む、にぎやかな雰囲気食事となっている。行事や誕生日には職員がケーキを手作りするなど、嗜好アンケートの結果を基に、利用者の希望や好みが反映された献立になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の一日の食事、水分の摂取量を記録しながら状態に合わせて水分などの増減を調整しながら体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ごとに口腔ケアを促しながら清潔保ち、義歯の方にも一日に一回は義歯を洗浄することを勧め時間を決めずに行なうように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄では自立されている利用者がすくなくなっているが、その人の出来る排泄方法を考え、時間での誘導やいつもと違う行動などでサインを出してくれていることあるので見逃さないようにその人にあった支援をしている。	利用者の個人記録には、利用者の状況がよくわかるよう備考欄に詳細に記載されている。職員は利用者の行動を把握し、時間などで誘導してトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分量を把握し、申し送りや記録での排便確認を行ない、主治医との連携でその人に応じた予防や対策に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者ひとりひとりの希望に沿った時間での入浴は難しいが入浴日の中でゆっくりと楽しんでもらえるように支援している。	入浴は週2回とし、利用者、職員が会話を楽しむ時間となっている。腰掛が付いた広い浴槽は深さがあるため、利用者、職員にとっては負担があり、改善を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のリズムを把握し、また体調などに合わせ休息や睡眠を摂れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診や往診での薬の変更等は必ず職員に周知し、それを確認することで利用者の変化などを見落とすことのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分のしたいことや楽しみごとをなかなか思うように出来なくなっているが嗜好品での楽しみや、ご家族の面会や話して気分転換をしてもらうなど回りの協力ももらいながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況に応じながら散歩や、外食、買い物、ドライブなど出来るだけ本人の希望に沿えるよう務め、またご家族との外出なども計画し協力ももらいながら支援している。	今年度は多くの外出行事を計画し、動物園、買い物ツアー、ドライブなど、利用者の希望に沿った外出行事を実施している。職員は、利用者が楽しめるよう外出の機会を多く持ち、日常的な散歩や買い物を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来ない方にはご家族の了解のもと預かり金で対応しその中から買える範囲で対応出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は電話の対応のお手伝いをし、手紙も自分で書くことが困難な利用者には代筆などで希望する方に出せるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活空間では突然物を移動したりせず、個々の居室も家具などの移動に気をつけ、温度や湿度の調節にも気をつけながら居心地よく過ごせるように工夫している。	共用空間のリビングは広く、採光に優れ明るく開放的であり、大きなテーブルを配置している。台所は対面式で利用者とは会話を楽しむことができる。リビングから死角になる箇所があるため、天井にミラーを取り付けるなど、利用者を見守る工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でテレビを観たり、一人の時間を過ごすために居室で過ごしたり、気の合う人たちで歌を唄ったりしながら思い思いに自分の時間を過ごされている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して生活出来るように馴染みのものやいつも身近においている物などを持ってきて頂き、少しでも心地よく生活できるように工夫をしている。	居室は本人・家族とも相談し、入居前に使用していた家具や調度品、写真などが持ちこまれており、明るく清潔な設えとなっている。家族や友人の来訪時は、心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には目印となるものを用意したり、車椅子でもご自分で動けるようなスペースを作り見守りしながら安全に生活できるように工夫している。		